様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　４ 月 ２８ 日現在

機関番号：２４４０２
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ１９８３０

研究課題名（和文）児童虐待予防強化のための新たなシステム開発をめざしたフィンランドとの国際比較研究

研究課題名（英文）Comparative study between Japan and Finland aimed at a newly system construction modelled at Finnish maternity and child health clinics (neuvola)

研究代表者
横山　美江（Yokoyama, Yoshie）

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：５０１９７６８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フィンランドと日本の育児環境を比較分析することにより、日本の育児環境の問題点と特徴を明らかにし、日本に適した新たな母子保健システムを開発することを目的とした。フィンランドの母親は、日本の母親に比べ主観的健康感が高かった。さらに、本研究結果から、フィンランドのネウボラの基盤システムである就学前のすべての子どもをもつ家族を担当保健師が継続して支援するシステムを導入した自治体において、保健師の認識の変化について分析した結果、保健師がハイリスクケース以外の家族に対しても積極的に関わることができ、早期からの予防的介入ができる可能性が高いことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
わが国では、児童虐待相談対応件数は増加の一途をたどっている。本研究では、児童虐待の発生が極めて稀であるフィンランドと、虐待による死亡事例も多発している日本の育児環境を比較分析することにより、日本の育児環境の問題点と特徴を明らかにし、児童虐待予防を強化するための日本に適した新たな母子保健システムを開発することを目的とした。日本の自治体において、ネウボラの基盤システムであるお同じ保健師による稀有族支援を導入した自治体では、保健師がハイリスクケース以外の家族に対しても積極的に関わることができ、早期からの予防的介入ができる可能性が高いことが示され、虐待予防にも効果がある可能性が高いことが示された。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify differences in well-being and child care environment for mothers with infants by comparing Japanese and Finnish mothers, and to build a newly system for providing continuous support in the municipality modelled at its core on Finnish practice for maternity clinics and child health clinics (neuvola). Finnish mothers had significantly better subjective well-being compared with Japanese mothers. Our results indicate that the continuous support system modelled on core components put in place in Finland enables public health nurses to proactively engage families at lower risk and deliver preventive interventions at an early stage.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師　継続支援　保健師のやりがい　ネウボラ　母子保健の再構築　予防的介入

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

児童虐待は、先進諸国や発展途上国でも増加傾向にある。わが国においても、虐待のハイリスク家庭への支援を重点的に実施しているものの、児童虐待の相談件数は増加の一途をたどっており、死亡事例も多発している。一方、フィンランドは、世界的にも優れた親子保健システムが確立しており、児童虐待に関する深刻な事件はほとんど発生していない。このため、児童虐待の発生が極めて稀であるフィンランドと、虐待による死亡事例も多発している日本の育児環境を比較分析し、かつ日本の育児環境の問題点、ならびに日本の母子保健の課題を明らかにし、児童虐待予防の方策を検討することは極めて重要である。

２．研究の目的

本研究では、児童虐待の発生が極めて稀であるフィンランドと、虐待による死亡事例も多発している日本の育児環境を比較分析し、かつ日本の育児環境の問題点、ならびに日本の母子保健の課題を明らかにし、児童虐待予防の方策を検討することを目的とした。

本研究を推進するため、以下の２つの研究課題を中心に研究を実施した。

研究課題１：フィンランドの母親と日本の母親の比較研究
研究課題２：担当保健師による継続支援システムを取り入れた自治体における保健師の母子保健活動への認識の変化：フィンランドのネウボラの基盤システムの導入

それぞれの研究課題ごとに報告する。

研究課題１：フィンランドの母親と日本の母親の比較研究

Yokoyama Y,et al. Maternal subjective well-being and preventive health care system in Japan and Finland. European Journal of Public Health, 8(4): 652-657,2018 より引用改変

(1) 研究の目的

本研究では、日本の乳児を持つ母親の健康状態を、フィンランドのネウボラを利用する母親との比較から分析し､母親の健康状態とそれに関連する要因を明らかにすることを目的とした。

(2) 方法

フィンランドにおける研究協力者は、ヘルシンキに在住するネウボラを利用する 4 か月児をもつ母親で、フィンランドの母親の年齢、子どもの月齢、子どもの数をマッチさせた日本の母親との比較分析を実施した。本研究は、大阪市立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認、および国立健康福祉研究所の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(3) 研究成果

Table１に示すように、フィンランドの母親は、親のグループ、子どもを持つ友人、ネウボラの保健師から育児情報を得ていると回答した者が日本の母親に比べ有意に多かった。特に、フィンランドの母親は、ネウボラの保健師から育児情報を得ていると回答した者が 85.1%であったのに対し、日本の母親では 7.7%であった。一方、日本の母親では TV から育児情報を得ていると回答した者が、フィンランドの母親に比べ有意に多かった。

母親の健康状態に関する指標に関しては、母親のストレス得点やエジンバラ産後うつ病自己評価表（EPDS）では、フィンランドの母親と日本の母親で有意な差は認められなかった。しかし、母親の主観的健康感は、フィンランドの母親の方が日本の母親に比べ有意によいことが明らかとなった。さらに、母親の主観的健康感を従属変数に線形回帰分析を実施し、交絡因子を調整すると、保健師からの育児情報は、母親の主観的健康感を高めるうえで重要な役割を果たしていることが示された（Table２）。

Table 1. Comparison of the source of childcare information and health status between Finnish and Japanese mothers

		Finnish mothers n（%）	Japanese mothers n（%）	P-value
Childcare information	Parenting groups	21（20.8）	24（ 4.8）	P<0.001
	Friends who have children	89（88.1）	383（75.8）	P=0.006
	Public Health Nurses	86（85.1）	39（ 7.7）	P<0.001
	TV	15（14.9）	161（31.9）	P<0.001
	Internet	85（84.2）	349（69.1）	P=0.002
Health status	Maternal subjective well-being[1)]	4.27±0.78	3.83±0.82	P<0.001
	Score of Stress state[1)]	3.81±2.08	3.63±2.13	n.s
	EPSD[1)]	5.22±3.63	4.64±3.55	n.s

1)Mean±SD

Table 2. Result of linear regression analysis of factors associated with maternal subjective well-being

Dependent variable		Finnish and Japanese mother (model 1)		
Variable	Independent variable	Beta	95% CI	P- value
Maternal Subjective well-being	Childcare information from nurses[1)]	0.13	0.09, 0.44	P=0.003
	Score of stress state	-0.36	-0.17, -0.11	P<0.001
	Age of mother	-0.12	-0.04, -0.01	P=0.004
	Sex of subject infant	0.94	0.03, 0.28	P=0.015
	Abnormality during pregnancy	0.15	0.12, 0.38	P<0.001
	Being able to get help from grandparents	0.09	0.01, 0.17	P=0.028

1)nurses: public health nurses

研究課題２：継続支援システムを取り入れた自治体における保健師の母子保健活動への認識の変化：フィンランドのネウボラの基盤システムの導入

［横山 美江, 他. 継続支援システムを取り入れた自治体における保健師の母子保健活動への認識の変化：フィンランドのネウボラの基盤システムの導入. 日本公衆衛生雑誌,2022（印刷中）より引用改変］

(1) 研究の目的

本研究では、フィンランドの基盤のシステムである就学前のすべての子どもをもつ家族を担当保健師が継続して支援するシステムを導入した自治体において、システム導入前と導入後の保健師の母子保健活動に対する認識の変化について分析することを目的とした。

(2)方法

データ収集期間は、2020 年 9 月から 10 月であった。データ収集は、インタビューガイドに基づいた半構造化面接によるフォーカスグループインタビューを実施した。本研究は、大阪市立大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(2) 研究成果

研究参加者は、12 人であった。担当保健師が継続して支援するシステムを導入する前の保健師の母子保健活動に関する認識として 4 つのカテゴリーが抽出され、導入後の認識としては８つのカテゴリーを抽出した。

担当保健師による継続支援システムを導入する前から、保健師は【ハイリスクケースを中心とした継続的な対応】を行い、【対象者のリスクに注力】しながら活動していたものの、【ハイリスクケース以外の対象者への点での関りによるその場しのぎの対応】にならざるを得ない状況で、【積極的に対象者に介入することに躊躇】していた。

しかしながら、担当保健師による継続支援システムの導入後、担当保健師としてハイリスクケース以外の家族に対しても【継続支援による信頼関係から生じる対象者の変化に応じた対応】ができるようになり、【対象者の些細な変化への気づき】もできるようになっていた（表３）。そのため、【担当保健師として積極的に対応】し、【早期からの継続的な予防的介入】が可能になったと認識していた（表４）。保健師は、【対象者への直接的な支援の増加による忙しさ】を感じつつも、【児の成長や育児スキルの上達への喜びを母親と共感】し、【保健師として喜びとやりがい】を感じながら、【保健師（専門職）としてのスキルアップ】の必要性も強く認識していることが明らかとなった。

本研究結果より、担当保健師による継続支援システムを導入することにより、保健師がハイリスクケース以外の家族に対しても積極的に関わることができ、早期からの予防的介入ができる可能性が高いことが示された。また、保健師としての喜びややりがいを高めることができることも示され、保健師としてのスキルアップの必要性も強く認識していることが明らかとなった。

表３．担当保健師による継続支援システム導入後の保健師の母子保健活動に対する認識（その１）

カテゴリー	サブカテゴリー
継続支援による信頼関係から生じる対象者の変化に応じた対応	継続して関わることにより、信頼関係ができ、対応しやすくなる
	継続支援によるより親身になった関わりができる
	個別性をより具体的に意識できるようになった
対象者の些細な変化への気づき	継続して関わることにより、対象者の状況を比較できる
	顔色や声の口調、トーンなどで母親の些細な変化に気づく
担当保健師としての積極的な対応	対象者との信頼関係ができているため、積極的に関われるようになった
	自分のケースという自覚があるからこそ積極性が生まれた
	もう少しすべての母親と密に関われる機会を持ちたい

表４．担当保健師による継続支援システム導入後の保健師の母子保健活動に対する認識（その２）

カテゴリー	サブカテゴリー
早期からの継続的な予防的介入	早い段階から対象者と継続的につながることができる
	これまでアプローチができていなかった母親や児に対応できている
	ハイリスクになる前に介入できている
	担当保健師と話す中で、母親の不安が解消される
	困ったことがあれば母親から早めに連絡が入るようになった
	通常のケースへの丁寧な関わりが虐待予防につながる

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　11件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 横山 美江	４．巻 76(4)
２．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健再構築（第1回）日本でつくるネウボラに必須 のシステム　ポピュレーションアプローチで防ぐ児童虐待	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 316-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201403	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 天野 由美子，横山 美江	４．巻 76(5)
２．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健再構築（第2回）島田市版ネウボラの構築	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 400-405
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 横山 美江	４．巻 76(6)
２．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健再構築（第3回）大阪市版ネウボラの構築 アドバイザーとして参画した立場から	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 474-479
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201440	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 横山 美江	４．巻 76(10)
２．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健再構築（第7回）ネウボラに学ぶ健診会場の環境　尼崎市の実践紹	５．発行年 2020年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 874-877
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201531	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山 美江	4．巻 76(11)
2．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健再構築（第8回）フィンランドのネウボラの必須のシステムを取り入れた自治体の活動の振り返り	5．発行年 2020年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 952-955
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201548	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山美江	4．巻 76
2．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健 再構築	5．発行年 2020年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 316-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 天野由美子，横山美江	4．巻 77
2．論文標題 ネウボラから学ぶ日本の母子保健 再構築：島田市版ネウボラの構築	5．発行年 2020年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山 美江	4．巻 14
2．論文標題 ネウボラで活躍しているフィンランドの保健師と日本の保健師活動の未来	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大阪市立大学看護学雑誌	6．最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 横山 美江	4．巻 74(6)
2．論文標題 フィンランドのネウボラで活躍している保健師から学ぶ子育て世代包括支援センターの在り方	5．発行年 2018年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 452-457
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岸田 久世，横山 美江	4．巻 74(6)
2．論文標題 中市の取り組み　地区担当保健師の活動強化と妊娠期からの多職種との連携支援	5．発行年 2018年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 472-477
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 畠山 典子，朝比奈 青里花，大崎 和江，芝岡 美枝，田村 美智，福島 富士子，横山 美江	4．巻 74(6)
2．論文標題 梼原町の取り組み　地区担当保健師制の強化　切れ目ない支援の実現へ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 478-483
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福永 淑江，横山 美江	4．巻 74(6)
2．論文標題 大阪市港区の取り組み　ネウボラのエッセンスを取り入れた地区担当保健師による継続支援システムの構築	5．発行年 2018年
3．雑誌名 保健師ジャーナル	6．最初と最後の頁 484-489
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yokoyama Y, Hakulinen T, Sugimoto M, Silventoinen K, Kalland M	4．巻 28(4)
2．論文標題 Maternal subjective well-being and preventive health care system in Japan and Finland	5．発行年 2018年
3．雑誌名 European Journal of Public Health	6．最初と最後の頁 652-657
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/eurpub/ckx211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yokoyama Y, Hakulinen T, Sugimoto M, Silventoinen K, Kalland M.	4．巻 12
2．論文標題 Maternal subjective well-being and preventive health care system in Japan and Finland.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 European Journal of Public Health	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/eurpub/ckx211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Sugimoto M, Yokoyama Y.	4．巻 22(1)
2．論文標題 Characteristics of stepfamilies and maternal mental health compared with non-stepfamilies in Japan.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6．最初と最後の頁 48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12199-017-0658-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 横山美江, Hakulinen Tuovi	4．巻 59(7)
2．論文標題 フィンランド －ネウボラの妊娠・出産・子育て－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 保健の科学	6．最初と最後の頁 483-488
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 小川 優，横山 美江．	4．巻 6(1)
2．論文標題 乳児の母親と3歳児の母親がもつ母性意識　比較および関連要因の検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本公衆衛生看護学会誌	6．最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15078/jjphn.6.1_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 横山 美江	4．巻 14
2．論文標題 ネウボラで活躍しているフィンランドの保健師と日本の保健師活動の未来	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大阪市立大学看護学雑誌	6．最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24544/ocu.20180403-003	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 横山美江
2．発表標題 大阪市版ネウボラにおける担当保健師の継続支援と家族支援の基盤づくり
3．学会等名 第78回日本公衆衛生学会シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 横山美江
2．発表標題 フィンランドのネウボラから学ぶ母子保健活動の評価とわが国における母子保健システムの検討 ネウボラのエッセンスを取り入れた自治体における母子保健システムの構築
3．学会等名 第77回日本公衆衛生学会（招待講演）
4．発表年 2018年

１．発表者名 横山美江
２．発表標題 フィンランドのネウボラから学ぶ日本の母子保健の未来
３．学会等名 第76回日本公衆衛生学会 シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 横山美江，越林いづみ，畑中美優寿，福永淑江，森河内麻美，藪本初音
２．発表標題 子育て世帯包括支援センターのあり方をフィンランドのネウボラから学ぶ
３．学会等名 第6回日本公衆衛生看護学会 ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 横山 美江，Tuovi Hakulinen	４．発行年 2018年
２．出版社 医歯薬出版	５．総ページ数 129
３．書名 フィンランドのネウボラに学ぶ　母子保健のメソッド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/chiiki_kango/
http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/chiiki_kango/
http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/chiiki_kango/
ホームページ
http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/chiiki_kango/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	福田　早苗 (Fukuda Sanae) (50423885)	関西福祉科学大学・健康福祉学部・教授 (34431)	
研究分担者	福島　富士子 (Fukushima Fujiko) (80280759)	東邦大学・看護学部・教授 (32661)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関